

目的：日本全体が長寿社会に突入している今日、秋田県は21世紀の初頭には65歳以上の人が県人口の25%を占め、全国一の高齢化県となることが予想されている。そこで高齢者の衣生活の現状と衣服に対する関心度を把握する。

方法：1) 健康な65歳以上の高齢者323名を対象に質問紙による調査を行った。調査時期は平成3年7月上旬～10月上旬である。2) 調査内容は①基礎調査(居住地、家族構成など)、②衣服に関する意識、③衣服購入時に配慮する項目、④既製服の利用と管理項目、⑤色の好みについてなどである。3) アンケート結果は単純集計および多変量解析による意識構造の分析を行った。

結果および考察：1) 「体型を考えて選択する」「色や柄を重視する」「衣服を大切にする」「実用性を重視する」と答えた人が68.6%であった。これは自分の体型をカバーし、着やすい機能的な衣服、美しく装おうことで心を豊かにしたいと思っている人たちであると考えられる。また「人の視線や他人の衣服が気になる」「衣服にお金をかける」「ファッション情報に関心がある」と答えた人が31.4%であった。これはファッション性のある服が欲しい、生きがいの中におしゃれをして若返りたいと考えているものと思われる。2) 数量化Ⅲ類によるタイプ別分類をした結果「堅実なタイプ」と「おしゃれなタイプ」に分類することが出来る。3) 衣服の購入時に配慮する点として着やすさ、色、デザインをあげており機能面と装飾面の両方を兼ね備えた着装を考えているものと思われる。